

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0170201792		
法人名	株式会社 じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム菜の花 東苗穂館 (2階ユニット)		
所在地	札幌市東区東苗穂8条2丁目13番10号		
自己評価作成日	平成27年10月2日	評価結果市町村受理日	平成27年度12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=0170201792-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成27年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念にある入居者様の喜びと希望にあふれた暮らしを支えるサービスを第一に地域から愛され信頼されるホームを目指し、町内会や近隣地域との交流を積極的に行っています。年間行事の夏祭り、敬老会、クリスマス会には町内会の方や老人クラブの方を招待しています。特に夏祭りでは町内会の回覧板や戸別にチラシを配り、広く地域の方々に開かれたホームである事を知って頂けるよう開放しています。結果、地域の方々に浸透し毎年近所の方や子供達が沢山立ち寄って頂いています。また、町内会行事にも参加しています。例年の花講習会は入居者様も楽しみにされています。ご家族とも連携を強化し、共に入居者様を支える事を理解して頂き、家族会には沢山の出席がありました。入居10年を超える入居者様も多い中、重度化の進行に伴い看取りを前提とした介護にも取り組み、昨年度は3名の入居者様がホームにて最期を迎えられました。医療関係者との連携、ご家族との十分な話し合いのもと、入居者様にとって終の棲家として頂けるよう、体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市東区の幹線道路丘珠空港通に面した住宅街に位置し、3階建て2ユニットのグループホームである。近隣にはスーパーやドラッグストアなどの商店があり、利便性のよい地域である。また、隣接して有料老人ホームがあり、共同で夏祭りや災害訓練を行うなど地域と連携した活動を行っている。法人は、大手老舗の法人グループで、市民からの信頼も厚く、介護事業所は12ヶ所あり、培ったノウハウを運営に活かしている。職員は、法人理念と七つのケア理念に基づき、家族と連携し、気づきシートを活用して、利用者一人ひとりの思いや意向に寄り添ったケアに努めている。特に最近では、利用者の重度化の進行に伴う看取りの介護となり、医療連携で、家族と話し合いながら看取りを行うチームワークでの支援が培われている。地域の一員としての相互の交流も日常的に行っているなど地域密着型サービスの拠点事業所として、今後も期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の実績を取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は目に見える所に提示し、個人ネームの裏側にも理念が記載されている。毎日理念の唱和を実践しており、理念を理解し理念を基にケアを実践している	法人理念とケア理念は、事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載して、利用者や家族に周知している。職員は、ネームプレートの裏に理念を記載し、一日の始まりに唱和して、理念を共有して実践につなげている。また、ユニット毎に毎月の目標を決めてケアに努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り・敬老会・クリスマス会・消防訓練・町内会茶話会等、地域住民との交流を行っている。また、隣接の施設と夏祭りの合同開催も実施している。	町内会の講習会や花壇の整備などに職員と一緒に利用者も参加している。保育園園児の来所や中学校合唱部の発表会なども年2回あり楽しい行事となっている。また、事業所主催の夏祭りや敬老会は地域の方も参加され、相互の交流を日常的に行っている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やホームの行事に地域の方々も参加し、認知症についての講習を通じて理解を深めて頂いている。入居相談やホームの見学に訪れた方にもホームの特徴や認知症についての説明や特性、アドバイスを行っている。			
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者様の日常の様子をスライドショーで紹介したり、日々の生活やホームの取り組みを報告している。また、ご家族・町内会等参加者からのご意見を頂きサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、地域包括センター職員や町内会役員、民生委員、地域の方や家族などが参加して、定期的に開催され、スライドによるホームの様子を把握し、家族や委員からの意見を聞く機会となり、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に開催され、委員からの意見や要望など充実したものになっているが、各委員や家族へ配布する議事録がさらに簡潔明瞭になるよう期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との連絡、協力関係を築くようには取り組めていない。	重要事項については、本部が対応しているが、区の生活保護担当者の定期訪問や介護保険担当者への連絡や報告、相談などを行っており、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的にカンファレンス等で学ぶ機会を作り、また身体拘束マニュアルはいつでも職員が見られる場所にある。入居者様が尊厳を持って暮らしていける様取り組みを実施している。玄関の施錠は夜間のみで日中は開錠している。	身体拘束をしない指針とマニュアルを整備しており、職員は年1回外部研修会に参加し、事業所内でも研修して学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、転倒予防等安全対策の為のセンサーマット活用などあらゆることを想定し、利用者や家族の理解が得られる同意書等の整備を期待する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修や内部研修で学ぶ機会を出来るだけ多く持ち、全職員が虐待についての重みを十分に理解しケアを行っている。定期的に職員とミニカンファを開き職員間で話し合える環境作りが出来る様努めている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護や成年後見制度を内部研修を通じて学ぶ機会を持っている。ご家族から相談があった場合や入居相談時に必要があれば支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は重要事項の説明を本社職員・管理者が行い、介護計画の説明を管理者・介護支援専門員が納得して頂けるまで説明。また、契約後も随時相談に応じている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会で出されたご家族の意見を運営に反映している。また、ご家族の面会時においても日々の状況を伝え、意見を頂きやすい環境を作っている。	利用者の生活状況は、ホーム便りを毎月配布して報告している。また、運営推進会議でもスライドで生活の様子を見てもらっている。玄関に意見箱を設置し、家族会を年1回開催して、利用者や家族からの意見や要望を聞く機会となり、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は管理者、リーダー会議、ワーキング会議で現場の声を聞き提案、検討をしている。	管理者会議やリーダー会議、ワーキング委員会など法人グループ全体で職員の意見を聞く機会を設けており、各事業所の運営に反映している。また、管理者が職員との個人面談を年1回実施して、個別に意見や提案を聞き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格があるものは、手当が支給され向上心を持って働ける様、環境が整備されている。また、長時間労働にならない様、随時業務改善にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社教育課によるスタッフ研修で職員個々のスキルアップを図ったり外部研修への参加促進も行っている。また、必要時には面談を行い職員の目標設定や目標の達成する為の助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	東区管理者会議への参加や近隣の有料老人ホームとの夏祭り(企画・開催)を行い、共同作業を通じ他施設との違いや、良い点の吸収に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族より入居前の状況や生活歴や既往歴などを伺い、ご本人の不安に思っている事を、職員全員が傾聴し共有を図り、笑顔で接し寄り添い、安心して生活できる関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時や面談でお話を伺い、話し合える環境づくりをしている。また、生活に慣れるまで定期的にご家族へ日常生活の様子やケアの進捗状況等の説明を行い信頼関係が築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と密に連絡を取り、その時に必要な支援を見極めている。ご本人、ご家族との話し合いで状況に応じ、訪問診療、訪問歯科、訪問リハビリ等も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の想いに耳を傾け、買い物に出かけたり食事作りや掃除等を共に行う事で関係を築いている。また、感謝の言葉を常に伝え、共に喜びのある暮らしが出来る様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に定期的に日頃の生活状況や支援の考え方をお伝えし、ご本人にとってどのような状態が良いのか、レクリエーション活動を通じ、一緒に考え話し合う場を多く設け、支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方でなかなか来られない方が来館された際は、入居者様と写真を撮影し、帰られる際に写真を渡し、また来館したいと感じて頂ける様努めている。また、ご家族と外出できるよう電話等で声掛けし馴染みの場所へ行ける様努めている。	家族や親戚などの来訪が多く、遠方の方の来所時は記念写真を撮り、次の来所に繋げるなど馴染みの人との関係の継続を支援している。また、お墓参りや正月などは家族と外泊して楽しく過ごせるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会で入居者様同士によるお祝いの言葉を伝え合い、また入居者様による楽器演奏や歌のプレゼント等アットホームな雰囲気作りに努めている。また、入居者様同士の関係が出来る様会話する際に職員が間に入る等の配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族から手紙が来たり夏祭り等にも参加して頂いたりと交流がある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に過ごし方の希望を伺ったり、趣味や嗜好等を考慮した提案を行ったり、意思表示が困難な方には何が現状必要なのか何を望んでいるのかを職員で考え本人本位のケアを検討している。またご家族からの基本情報も参考にしている。	日常のケアの中で、「気づきシート」を活用して、利用者についてのあらゆる気づきを集約して、本人の思いや意向の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートに生活歴の記載やご本人の会話やご家族からの会話等から馴染みの暮らし方を把握し、現在の生活に反映できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子を介護記録や業務日誌に記載し申し送り時に伝えたり、入居者様の様子を細かく職員間で伝達し共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人の想いを聞き、アセスメントシートを活用しプラン原案の作成を行いカンファレンスで職員全員で検討し計画を作成している。また、モニタリングもカンファレンス時(月に1度)に行っている。	利用者や家族の思いや意見を聞き、アセスメントシートを活用して、担当者と計画担当者が原案を作成し、主治医などの意見も含めて、カンファレンスによる職員全員で検討して、モニタリングを行いながら、本人に合った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきシート(入居者様の状態変化や様子を記載する用紙)を介護記録と同じ場所に置き、気づきがあった場合にすぐ記載出来る様にしている。介護記録・業務日誌、気づきシート等に基づき、ケアプランの立案に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望に合わせ、マッサージの利用や他事業所に出向き他館交流を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣を散歩し、近所の方々と挨拶を交わしたり町内会のボランティアの活用も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関と連携を取り、体調の変化があれば主治医と連絡し24時間適切な医療を受けられる様支援している。	利用者や家族の意向に沿い、かかりつけ医は継続して、個別に対応しているが、訪問診療が必要となった場合は、24時間対応の医療機関に変更もある。受診は家族同行だが、必要に応じて職員が同行している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師に、入居者様の日々の様子や健康状態を伝え、情報交換を行っている。それに基づき、適切な訪問診療や受診が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には既往歴や経過を正確伝え、今後の見通しを病院関係者と話し合い、情報交換や相談をし、安心した治療が受けられる様、病院と密に連携し支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化した場合や終末期の対応について、ご本人やご家族の意向を聞いている。入居者様の状態の変化があれば随時意向を確認し医療関係者との話し合いを交え、事業所の可能な支援を明確にしチームで支援している。	重度化や終末期の対応や方針については、入居時に利用者や家族に説明して同意を得ている。重度化した場合は、医師・看護師・本社本部と連携して、利用者や家族と打合せしながらチームで支援に取り組んでいる。	最近では、看取りの経験が顕著であるため、経験事例を集約し、マニュアル化して、職員の研修資料となるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの学習、新人研修やカンファレンスでの内部研修等で、緊急時の対応方法の確認や訓練を行い、緊急時フローをリビング、スタッフルームに貼り、迅速な対応が出来るように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員による防災訓練を年に4回、うち2回は消防署や地域住民の方々が参加し行っている。火災等があった際は、自動通報装置で地域の方に連絡され、避難の協力体制を築いている。	避難訓練は、消防署指導の下、町内会や隣接した老人ホームなどの近隣住民の協力で、火災で3回、地震で1回を実施している。避難マニュアルや備蓄も整備して地域との協力体制で災害対策を行っている。	町内会や近隣住民の協力体制で災害対策を行っているが、地域への資源開放として、当事業所が地域での災害時の避難先として認定されることを期待したい。
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や接遇の方法（入居者様の誇りやプライドを傷つけない声掛け）等を内部研修や新人研修で学び職員全員が共有し、尊厳とは何かを理解しながら、一人一人の誇りを守り、人権を尊重した対応を心掛けている。	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーについては、年1回研修を実施しており、新人には、採用時に接遇の研修を行っており、人格の尊重やプライバシーを確保した対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出時は入居者様と一緒に行き先を決め、食事は食べたい物を選ぶよう働きかけ、実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様の状態に合わせて起床時間や食事時間等を柔軟に変更し対応している。アクティビティ等も入居者様が行いたいと思う事を考え、ピアノが好きな方にはピアノ演奏、静かな環境で過ごしたい方には静かな環境を提供し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服を選んだり、行事の際は化粧をしたり、男性はスーツを着たりとその時に応じた服装ができる様支援している。また、普段も化粧が好きな方には、職員が付き添いながら化粧ができる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ(もやしの芽取り)や盛り付けを職員と会話をしながら行い、食後の後片付けはおぼん拭きや食器拭き等を立位が困難な方は自席で、立位保持可能な方には台所でと身体状態に合わせ共にしている。	メニューは法人の管理栄養士が作成しており、要望は随時行っている。利用者は、職員と一緒に料理の下準備や盛付、片づけなど行っている。調理は普段の自宅の食事をモットーとしており、和やかな食事の時間である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養士が作成し、カロリー計算をされている。水分量や食事は入居者様に合った量を提供、また嚥下状態が悪い入居者様には水分にとろみをつけたり、食事を一口大やきざみにし水分・食事共に摂取できる様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に一度、訪問歯科を利用し、歯科医の指導の基毎食後職員が入居者様に合った口腔ケアの支援をしている。自身で歯磨きが出来入居者様の口腔内も確認をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を基に、排泄パターンを把握し支援している。また、入居者様の体調や状態に合わせたトイレ誘導を意識し、失禁のリスクが減る様支援している。	一人ひとりの排泄チェック表を元に、表情や仕草、様子を見ながら声掛けの誘導をして、トイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹圧がかかるよう腹部マッサージの実施、排便を促すことができる食べ物や飲み物を取り入れている。薬を使用する必要がある入居者様には、医師に排便状況を伝え対応し、負担にならないよう配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	ご本人の希望に沿うように入浴して頂いている。入居者様に合ったお湯の温度や入浴剤の使用をしリラックスした時間を過ごせる様支援している。また、体調の優れない入居者様には清拭の対応をしている。	入浴は週2回以上だが、利用者の意向を尊重した入浴の支援をしている。浴槽は3点介助型の浴槽で介助者の負担が少ない。また、近隣の銭湯への行く支援も予定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、居室で休んで頂いたり、夜は好きなテレビ番組を見たり、不安を訴える入居者様には職員が気持ちが落ち着くまで話を傾聴し、気持ちが落ち着いた状態で就寝できる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師からの説明や処方箋等を確認し職員全員で情報共有している。薬の用量の変化や薬の増減があった場合は連絡ノートや申し送り等でさらに確認し情報にずれがないよう対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ピアノを趣味とされている入居者様はリビングで演奏をしたり、菜園を趣味とされている入居者様には、室内にプランターを用意し、職員と水やりや収穫をしたりと一人一人の楽しみごとを支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望を聞き、近隣の散歩や食事などの外出を支援している。また、ご家族の希望で食事など外出されている入居者様もあり、ご家族の意見も取り入れながら外出が出来るよう支援している。	職員や家族と同行して、近くのスーパーやコンビニなどへ買い物や散歩を日常的にしている。また、月1回の行事では、百合が原公園や紅葉狩り、水族館など多彩な外出計画で楽しみながら外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーに買い物に行く時や外出レク等で食事をする時は職員と共に、買い物を楽しんで出来る様支援している。入居者様の力に応じたお金の使い方を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば掛けている。ご家族からの手紙を渡し、入居者様の力に応じてご家族や知り合いに手紙を出すことが出来る様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と共に季節の作品を作り壁に装飾したり行事等の写真を飾ったり日々の想い出を振り返る事が出来る様、支援している。また、入居者様にとって不快に思われる様な刺激の強い色や音などには気をつけ、気持ちが落ち着ける場所を提供できる様努めている。	共用空間は採光や風通しもよく、利用者の作品が多く飾られている。季節の切り花や観葉植物などで季節が感じられる配慮をしている。廊下が幅広く、長いので、歩行の練習となり元気な利用者が多い。居間はゆったりとした寛ぎの空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビが見られるソファで他入居者様と一緒に過ごされたり、うたた寝されたり、自席で本を読まれたり一人一人が過ごしやすい環境を提供できる様努めている。また、共用空間が苦手な方には静かな場所にソファを設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族と相談しながら、家具や日用品等、馴染みの物を使用して頂き、思い出の写真を居室に飾ることで、安心感があり居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	居室は、一間のクローゼットがあり、収納に便利である。各室は清潔に保たれ、利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参しており、居心地のよい生活に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、浴室が分かる様に大きく分かりやすく表示している。また、移動する際に怪我をしない様に家具や備品の配置等に特に注意を払っている。		